

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第37回（平成29年度第3回）理事会議事録

日 時：平成29年10月8日（日） 13：00～17：00

場 所：広島大学東京オフィス

東京都港区芝浦3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター409号室

出席者：檜山英三（理事長・第61回学術集会会長）

堀部敬三（副理事長）

足立壯一、天野功二、井上雅美、今泉益栄、大植孝治、大賀正一、小野 滋、上條岳彦、
上別府圭子、菊田 敦、木下義晶、副島俊典、田尻達郎、西川 亮、堀 浩樹、真部 淳
（以上理事）

仁尾正記（監事）

石井榮一（第59回学術集会会長）

欠席者：田中祐吉（理事）

小林正夫（監事）

細井 創（第60回学術集会会長）

議 長：檜山理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は19名中18名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者承認の件

真部庶務・財務委員長より、資料をもとに、正会員19名の入会申請者が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2. 会員資格継続申請者の承認の件

真部庶務・財務委員長より、資料をもとに、会員資格継続申請者1名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

3. 大谷賞選定の件

西川学会賞等選考委員長より、評議員及び名誉会員による投票結果が示され、議場にて討議がなされたところ、本年度は石田也寸志先生1名の授賞とすることが決定された。

論文名「小児がん経験者の成人医療移行への準備状況に関する横断的実態調査」

4. 学術賞選定の件

資料をもとに、本年度学術賞について、10本の論文の応募があったが、1名で3本応募した方がいたため、委員会協議の結果、会員に幅広く授賞機会を与えたいとの理由から、その応募者に確認し1本のみのお応募に変更となった旨が説明された。その後、8本の論文について、委員会及び選考WGメンバー11名にて厳正に審査されたことが報告された。委員会審査結果が示され、議場にその承認が求められたところ、臨床領域の固形腫瘍分野、臨床領域の血液疾患分野、基礎領域の固形腫瘍分野については委員会審査結果どおり3本の論文が選定された。基礎領域の血液疾患分野の授賞候補者1名については、筆頭著者と同等の著者が複数名いたが、その著者達から学術賞応募承諾署名をいただいていたため、全員の署名を得ることができれば受賞とすることが提案され、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

5. 第62回学術集会会長選定の件

議長より、資料をもとに、本年度は菊田 敦先生（福島県立大学）1名の立候補があったことが説明された。審議事項に関連する菊田理事が離席された後、議場にその選任について承認が求められたところ、全員異議なく承認された。審議の後、菊田理事は席に戻り、続く審議事項に入った。

6. 第4回専門医試験結果に関する件

井上専門医制度委員長より、資料をもとに、試験結果について説明がなされた。

第4回専門医試験が9月9日（土）・10日（日）に実施された。

本年度は筆記・面接試験受験者37名（一般受験者2名、暫定指導医資格利用受験者7名、血液専門医資格利用受験者28名）であった。

筆記試験にて6割の得点率があるか、面接試験にて不良・不可の判定を得ていないかを合格基準とし、委員会にて総合的に判定した結果、32名については基準を充たしているため合格と判定し、5名については基準に至らず不合格と判定した。

以上の委員会審議結果について、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

7. 小児血液・がんみなし指導医認定の件

井上専門医制度委員長より、小児血液・がんみなし指導医への新規認定申請者1名に関して、専門医制度委員会にて提出書類をもとに厳正に審査した結果、認定要件を満たしているものと判定した旨が説明された後、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

8. 専門医制度規則付則へのCLIC受講要件追記に関する件

井上専門医制度委員長より、専門医制度規則付則に以下の規則を追記することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2022年度より緩和ケア研修会（CLIC）受講歴を小児血液・がん専門医認定申請及び資格更新のための必須要件とする。

9. 専門医制度施行細則第6条（研修単位）改正の件

井上専門医制度委員長より、専門医制度施行細則第6条（研修単位）について、本学会主催の教育セミナーの研修単位が10単位と記載されているが、5単位の教育セミナーも開催されているため、

以下の改正案が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

(改正前) 本学会主催教育セミナー 10単位

(改正後) 本学会主催教育セミナー 5～10単位

10. CANCER e-LEARNING 研修単位の件

井上専門医制度委員長より、専門医制度施行細則第6条（研修単位）に CANCER e-LEARNING 研修単位に関する以下の規則を追記することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

CANCER e-LEARNING1 項目につき1単位。ただし、認定申請・資格更新の際に5単位までを実績として認める。

11. 選挙に関する定款施行細則改正の件

副島規約委員長より、定款施行細則改正（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、討議がなされ、以下のように改正することで承認された。

条項	改正前	改正後
(理事の選任) 第4条 5.	選挙管理委員会は、候補者名簿と有権者名簿、候補者の所信表明をそろえて選挙の行われる2ヶ月前までに学会ホームページの会員専用欄を通じて全評議員に向けて公告する。理事候補者が同時に理事長に立候補することはできるが、理事長に選任された場合は領域別理事候補者から除外される。	選挙管理委員会は、候補者名簿と有権者名簿、候補者の所信表明をそろえて選挙の行われる2ヶ月前までに学会ホームページの会員専用欄を通じて全評議員に向けて公告する。
(理事の選任) 第4条 13.	候補者が領域別定数を超えたときは不完全連記による投票で選出する。得票数が同票の場合は、定時社員総会で抽選により当選者を選出する。	候補者が領域別定数を超えたときは不完全連記による投票で選出する。得票数が同票の場合は、年齢の高いものを当選者とする。
(理事の選任) 第4条 14.	領域別理事定数は以下のとおりとする。評議員は各自の所属する領域に限定されることなく、全領域の候補者に対して選挙権を有する。	領域別理事定数は以下のとおりとする。評議員は各自の所属する領域に限定されることなく、全領域の候補者に対して選挙権を有する。理事候補者は領域別に立候補を行う。
(監事の選任) 第5条 8.	得票多数のものより順次当選者を定め、得票同数のときは定時社員総会で抽選により当選者を選出する。候補者が定数の場合は信任投票とし、有効投票数の3分の2を獲得しなければならない。	得票多数のものより順次当選者を定め、得票同数のときは年齢の高いものを当選者とする。候補者が定数の場合は信任投票とし、有効投票数の3分の2を獲得しなければならない。
(理事長の選任) 第6条	理事長は理事の中から立候補とし、理事長選挙は理事選挙に先立って行われる。	理事長は理事の中から立候補とし、理事長選挙は理事選挙後に行われる。

(理事長の選任) 第6条 9.	理事長は選任された時点で領域別理事または理事候補者から除かれ、領域別理事の定数が補充されるものとする。	理事長の任期は選出された定時社員総会日翌日から2年後の定時社員総会日までの2年間とし連続再任は1回のみ認められる。
(理事長の選任) 第6条 10.	理事長の任期は選出された定時社員総会日翌日から2年後の定時社員総会日までの2年間とし連続再任は1回のみ認められる。	削除

12. 選挙管理委員の選任の件

議長より、資料をもとに、選挙管理委員候補者一覧が示され、議場にて討議がなされたところ、内科系委員として、前田美穂先生、磯山恵一先生、木下明俊先生の3名に順に打診すること、外科系委員として、上野滋先生、土岐彰先生に順に打診することとなった。

13. 選挙日程に関する件

議長より、選挙日程（案）及び選挙の公示（案）が示され、議場に意見が求められたところ、以下の意見開陳がなされた。

- ・小児科領域理事については、今回5名選出となるため、人数調整上、得票数の最も少ない1名は2年任期とする。
- ・公示書面に理事長選挙の立候補受付期日が記載されていなかったため追記する。
- ・2年任期の理事が任期満了となった場合、続けて立候補できるかについては、立候補はできるが、任期調整について考慮いただくこととする。
- ・スムーズに体制を移行するため、5月の新旧合同理事会で次期委員会体制も検討し、定時社員総会までには次期体制案ができていくように進める。

14. 利益相反に関する Q&A のホームページ掲載について

天野利益相反委員長より、資料をもとに、利益相反に関する Q&A 資料が示され、議場にそのホームページ掲載について承認が求められたところ、COI 自己申告書の保存期間については再確認し、必要であれば修正することとして、承認された。

また、議場より、JCCG の利益相反申告書と記載形式を揃えて欲しいとの意見があり、次回の申告に向けて、委員会にて検討することとなった。

15. 血球貪食性リンパ腫組織球症（HLH）の診断治療についてのガイドラインの件

足立疾患委員長より、資料をもとに、組織球症委員会から標記ガイドラインの作成伺いがあったことが説明され、議場に非腫瘍性血液疾患についてのガイドライン作成について意見が求められたところ、討議がなされ、作成については問題ないが、今後は、診療ガイドライン委員会が各委員会におけるガイドライン作成状況を把握し、適宜ホームページ掲載等を検討することとなった。

16. 組織球症委員会の稀な組織球症に関する調査研究及び症例登録参加に関する件

足立疾患委員長より、資料をもとに、国際組織球症学会（Histocyte Society）の Rare Histiocytosis Committee から稀な組織球症の症例登録参加が呼びかけられている旨が説明され、組織球症委員

会ではレジストリー参加を前向きに検討していること、また、稀な組織球症に関する調査を計画していることが説明された。この調査研究に関して議場に意見が求められたところ、以下の意見開陳がなされた。

- ・学会の疾患登録を利用することとして、疾患の登録を促すべきである。
- ・本研究の症例登録は収集が困難に思われる。

討議の結果、研究計画については問題ないため、研究審査委員会に申請していただくこととし、症例登録参加については、まずは学会の疾患登録を利用することとなった。

17. CANCER-e-LEARNING に関して

大植教育・研修委員長より、資料をもとに、日本癌治療学会より CANCER-e-LEARNING の使用許可がおりたため、今後受講手順を作成し、HP にて掲載及び会員周知することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

18. 次年度の緩和ケア研修会（CLIC）開催について

大植教育・研修委員長より、資料をもとに、次年度の緩和ケア研修会（CLIC）開催回数及び開催地について議場に意見が求められたところ、以下の意見開陳がなされた。

- ・専門医認定の要件となるため、年間2回は開催する必要がある。
- ・開催日程は共催する日本緩和医療学会と協議して決定すべきである。

討議の結果、年間2回開催は必要とし、開催日程は日本緩和医療学会と協議の上、決定することとなった。日本緩和医療学会に合同委員会を組織するよう提案する。

19. 学術集会演題募集の際の倫理的配慮に関する規定（案）の件

菊田倫理委員長より、学術集会演題募集の際の倫理的配慮に関する規定（案）が示され、議場に意見が求められ、討議がなされたところ、原案通りで承認とし、演題募集ページや学会ホームページにて公開することとなった。

また、議場より、英語での案内文の公開要望があり、倫理委員会にて検討することとなった。

さらに、議場より、この規定を日本小児外科学会と情報共有する要望があり、異議がなかったため、情報を共有することとなった。

20. 小児がん全国登録との連携について

木下学術・調査副委員長より、資料をもとに、小児がん全国登録を学会疾患登録と連結するにあたり、学会内で担当する委員会を組織することが提案され、議場に承認が求められたところ、委員会の組織体制については今後の検討事項として承認された。ただし、過去に小児がん全国登録にて集計されたデータは学会へは引き継がず、今後のデータについて IRB 承認を得て学会で集計することとする。

21. 2018年6月の定時社員総会会場について

議長より、標記事項について、議場に意見が求められ、議場より、名古屋医療センター及び名古屋大学医学部附属病院を会場とすることの提案があり、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、議場より、会場予約の都合上、日程及び会場を早めに決定すべきとの意見があり、今後の検討事項となった。

22. 内科系学会社会保険連合診療領域別委員会の見直しの件

今泉保険診委員長より、資料をもとに、標記事項について議場に意見が求められたところ、討議がなされ、検査関連委員会に新規加盟し、悪性腫瘍関連委員会及び小児関連委員会に加盟継続することとなった。

23. 小児慢性疾患意見書の改定案に関するパブリックコメント募集の件

議長より、標記事項について、学会ホームページにてパブリックコメントを募集することが提案され、議場に承認が求められたところ、疾患委員会及び理事会メーリングリストにて検討することとなった。

24. 特別児童扶養手当等の認定基準の改正について

議長より、標記事項について、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部より、学会として確認するよう要望があった旨が報告され、理事会メーリングリストにて確認することとなった。

25. AYA シンポジウム後援について

堀部副理事長より、資料をもとに、1st AYA Cancer Symposium「思春期・若年成人（AYA）世代とがん」一般・医療従事者向けシンポジウムの後援について、説明がなされた後、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

III. 報告事項

1. 庶務報告

真部庶務・財務委員長より、現在の会員状況について、資料をもとに報告がなされた。

また、平成 29 年度上半期決算資料が示され、項目ごとに説明がなされた。

議場より、賛助会員増のために働きかけてはどうかとの意見があり、今後の検討事項となった。

2. 研究審査委員会報告

上條研究審査委員長より、資料をもとに、研究審査状況が報告された。

3. 学術・調査委員会報告

堀部学術・調査委員長より、資料をもとに、以下の報告がなされた。

- ・新疾患小委員会委員への委嘱状が発行された。
- ・疾患登録集計を学会雑誌第 54 巻 5 号にて報告する。
- ・新疾患登録事業はシステムフォーマット作成の最終段階となっている。
- ・新疾患登録事業の研究計画書を作成予定である。
- ・日本がん・生殖医療学会登録について、本会疾患登録制度と連携の話がある。

4. 教育・研修委員会報告

大植教育・研修委員長より、資料をもとに、以下の報告がなされた。

- ・学術集会時の教育セッションを決定した。ワークショップとシンポジウムをセッションに含めた。
- ・緩和ケア研修会（CLIC）を開催した。参加者 14 名であった

また、議場より、平成 30 年度学術集会における教育セッションについて、IPSO とのジョイントセッションの提案があり、今後、学術集会プログラム委員会及び教育・研修委員会にて検討することとなった。

5. 保険診療委員会報告

今泉保険診療委員長より、資料をもとに、以下の報告がなされた。

- ・H30 年度診療報酬改訂に向けた提案書について以下の要望を提出した。（内保連を介して要望済）
「免疫遺伝子再構成を利用した定量 PCR 法による微小残存腫瘍（MRD）の測定」（検査・未収載）
「小児の特発性血小板減少性紫斑病（ITP）に対するヒト化抗 CD20 モノクローナル抗体（rituximab）」（医薬品・適応拡大）
- ・「医療上必要性が高い未承認薬・適応外薬検討会議」へ以下の要望を提出した。
「フルダラビン：再発・難治性急性骨髄性白血病に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法（FLAG + IDR 療法）」
「G-CSF：再発・難治性急性骨髄性白血病に対するフルダラビンを含む抗悪性腫瘍剤との併用療法（FLAG+IDA 療法）」（適応外薬、日本血液学会と共同提出）
「神経芽腫に対するイソトレチノイン（isotretinoin, 13-cis-retinoic acid）」（未承認薬）（提出済）
「中等度以上の再生不良性貧血に対する抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン（equine thymocyte immune globulin injection）」（未承認薬）（準備中）
- ・「再発及び難治性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対するテモゾロミドの使用実態調査」について、JCCG に対して JCCG 参加施設を対象にした実態調査を提案し了承された。

また、議長より、日本小児科学会にて AMED 事業の「小児領域における新薬開発促進のための医薬品選定等に関する研究」を開始するにあたり、小児医薬品開発ネットワーク説明会が開催される旨が説明された。

6. 国際委員会

堀国際委員長より、SIOP 2018 の準備状況について、以下のとおり報告がなされた。

- ・開会式について、皇室にご列席を要請中である。
 - ・LOC Educational Session について提案書提出予定である。
 - ・ノーベル賞受賞者の大隅教授と PD1/PD-L1 発見者の本庶教授の Plenary Lecture が決定している。
 - ・発展途上国からの発表者を対象としてフェローシップ 400 万円を検討している。
- また、第 59 回学術集会について、英文抄録を Wiley へ提出したことが報告された。

7. 長期フォローアップ・移行期医療委員会

檜山長期フォローアップ・移行期医療委員長より、資料をもとに、以下の報告がなされた。

- ・9 月 23 日（土）～24 日（日）に第 1 回研修会が開催された。
- ・参加者 56 名（医師 27 名、看護師 23 名、心理士 2 名、チャイルドライフスペシャリスト 2 名、教員（コーディネーター）1 名、ソーシャルワーカー 1 名）であった。

- ・第2回研修会は、2018年2月24日（土）～25日（日）大阪で開催予定である。
 - ・「移行期医療支援センター」の各都道府県への設置について、厚生労働省と相談した。今後の体制について、厚生労働省と相談して進めて行く予定である。
- また、議場より、研修会アンケートについて、小児だけでなく、AYA世代に関しても問う設問となるよう要望があり、今後委員会にて検討することとなった。

8. ゲノム医療推進WG

檜山ゲノム医療推進WG委員長より、資料をもとに、次世代シーケンサー等を用いた遺伝子パネル検査に基づくがん診療ガイドランス（案）が示され、議場に意見が求められたところ、以下の意見開陳がなされた。

- ・「小児がん・希少がん」の項目で、「遺伝子パネル検査を実施する。」と記載されている件について、実際には全例では実施できないため、断定しない表現とすべきである。
 - ・ゲノム医療推進委員会に日本小児血液・がん学会も参加すべきではないか。
- 討議の結果、「小児がん・希少がん」の項目で、「遺伝子パネル検査を実施する。」の後に、「別途関連学会等によって定められるガイドライン・ガイドランスを参照する。」と追記することを提案することとなった。

9. 第59回日本小児血液・がん学会学術集会

石井会長より、資料をもとに学術集会準備状況について以下の報告がなされた。

- ・名誉会員の参加費は無料とした。今後も同様の対応が望ましい。
- ・学術賞の表彰式は懇親会にて行う。

10. 第61回日本小児血液・がん学会学術集会

檜山次々期会長より、資料をもとに、以下の報告がなされた。

- ・2019年11月14日（木）～16日（土）開催
- ・会場は広島コンベンションホール・広島県医師会館
- ・収支予算案を作成した。

11. 第62回日本小児血液・がん学会学術集会

田尻理事より、資料をもとに、SIOP及びIPSOの会場は京都国際会議場となっているため、16日にはロームシアター京都からシャトルバスが運行する予定であることが報告された。

12. 次回・次々回理事会について

議長より、次回理事会は11月8日（水）16時から18時開催であることが報告された。

また、次々回の理事会は2月8日（木）13時から17時に田町のキャンパス・イノベーションセンターで開催することが報告された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。